

学年		第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年		
育てたい力		積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度						
重点指導目標		身近な場面での英会話に慣れ親しみ、英語で会話することを楽しむことができる。 相手の立場を尊重しながら、積極的に英語を使って会話し、進んでコミュニケーションを図ろうとしている。		「聞く・話す」、「読む・書く」の言語活動に慣れ親しみ、英語を使ったコミュニケーション活動を楽しむことができる。 様々な考えや意見を出し合い、互いに理解を深めたり、自分の意見を主張したりしながら英語を使って積極的に円滑なコミュニケーションを図ろうとしている。				
		英語ノートを活用し、外国語の音声や基本的な表現に、慣れ親しむ。 (声に出したり、歌ったり、英語でゲームしたりできる) Classroom English(教室英語)を繰り返し使ってコミュニケーションをとる方法を知り、自分で試すことができる。		英語ノートの内容を思い出し、慣れ親しんだ英語の音声や基本的な表現を使って、英語の学習に意欲的に取り組むことができる。 慣れ親しんだ表現などを用いて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーションを図ることができる。				
情報量		単語のみでのやりとり	文でのやりとり	文でのやりとり	ある程度の文章でのやりとり			
		導入期：ワンワードコミュニケーション						
積極的に コミュニケーションを 図ろうとする態度を 養う	英語に親しみ、積極的に コミュニケーションを 図ろうとする基礎的な 力を養う	聞く	発音(単音の聞き取り)VとB、FとHの違いなどに気付く	内容の聞き取り	単語の聞き取り 発音の復習	要点を聞く 相手の話を聞き、理解する		
			相手の目を見て聞く話 聞いてうなづく	音声面重視の言語活動	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて正しく聞き取る	情報を正確に聞き取る 質問や依頼を聞いて適切に応じる	話し手に聞き返すなどして確認する 概要や要点を適切に聞き取る	
		話す	自分の気持ちと照らし合 わせて、単語レベルで受 け答える	文のレベルで質問する	相手の質問に対して 賛否を言う	相手の出方を見てやりとりする 自己表現	自分の意見を述べる ディベート	まとまった文章で話す 要点を述べる 反論する
			音声面重視の言語活動	内容を聞いて受け答える	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて正しく発音する	自分の気持ち、事実を正確に伝える 問答したり意見を述べ合ったりする	つなぎ言葉を用いるなど工夫して話 す 簡単なスピーチをする	
読む	単語や文を、声に出して読む	板書で文字に触れさせる	文のかたまりで、意味を考えながら読む	3つ～5つの文を読む パラグラフ・文章のかたまりを読む	ある程度の文章を読む 伝言や手紙を読む			
			文字や符号を識別し、 正しく読む	内容を考えながら黙読したり、その内容が 表現されるように音読したりする	物語のあらすじや説明文などを正確に読み取る 意見などに対して書かれた内容や考え方をとらえる			
書く			アルファベット(A～Z a～z) 文 I am Tanaka Kumi. など	Did you enjoy your lunch? Yes, I did. I went to the park to play soccer. など	I have lived in this town for two years.			
	3年生で習うローマ字の復習		文字や符号を識別し、語と語の区切りやつなぎなどに注意して正しく書く	メモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりする	身近な出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書く			
「基本フレーズ」(5・6年は、英語ノートによる) 「重点フレーズ」 (中学校)		Hello. Bonjour. Boa tarde. (世界の挨拶) My name is ～. Nice to meet you. How are you? I'm fine./happy/hungry/sleepy. (挨拶) Rock,scissors,paper. One,two,three. (じゃんけん) How many ～? zero ～ twenty(数) I like ～. I don't like ～.Do you like soccer? (自己紹介、好きなもの) What do you want? Me 検証 (外来語) I study Japanese. What's subject is this?(教科) I study Japanese on Monday.(曜日) What would you like? I'd like juice. (丁寧)	How are you?I'm good./fine/hungry/sleepy. (挨拶) zero ～ hundred(数) Where is the station? Go straight. Turn right. (道案内、建物やお店の言い方) When is your birthday? My birthday is March 3rd. (月日) What time do you get up? I go to bed at 7:00. (自分の1日) Can you swim? I can play ～.(できること) I want to go to Italy. (行ってみたい国) What do you want to be? I want to be a teacher. (将来の夢)	How are you? I'm good./fine./hungry./sleepy. (挨拶) What day is it today? It's Monday. (曜日) What's the date today? It's September 3rd. (月日) Thank you. You're welcome. (お礼) What do you want? I want ～ 検証 Where is the toilet? It's near the shop.(場所) When do you practice? On Saturday evening. What time is it now? It's three o'clock.(時間) Whose flute is this? It's mine./ It's yours. Can I speak to Ken, please? Speaking. (電話)	What did you do yesterday? Can you play basketball? Will you play the piano tonight? What is your favorite color? Where do you want to go? How many brothers do you have? Which do you want, A or B? (選択) How do you use a computer? (方法) How much is this bag? It's 3,000 yen. What's the matter? I have a headache. Will you close the window? (依頼) Sure./ I'm sorry, I can't.	Did you play basketball yesterday? Have you studied English for a long time? Have you ever seen this picture? Which do you like better, A or B? Could you tell me the way to the station? Go along the street to the bank. (道案内) Would you like something to drink? Yes, please./ No, thank you. (選択) How can I get to the Hoya station? Take the train for Hanno. (方法) Would you ask him to call me? Sure.(依頼)		
		【小中で共通した挨拶】 (挨拶) Hello.Hi. Good morning. Good afternoon. Good-bye. See you next time. Thank you. (気分) How are you? I'm fine./good./hungry./sleepy./tired./hot./cold. (日付) What's the date today? It's June 1st. What day is it today? It's Friday. (天気) How's the weather? It's sunny./cloudy./windy./rainy.						

外国語活動・英語部会

育てたい力

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度

1 連携のねらい

平成23年度から小学校5・6年生において外国語活動が新設され、中学校の外国語の学習においては、小学校段階での外国語活動を通じて育成されるコミュニケーション能力の素地を踏まえて、指導内容の改善を図ることが求められている。そのため、小中学校での連携を深め、外国語活動から外国語への円滑な学習の流れを作ることが重要である。

新学習指導要領において、中学校の外国語の目標は、「外国語を通じて、コミュニケーション能力の基礎を養う」であり、小学校の外国語活動において、その素地を育成する。また、どちらの目標にも「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り」と共通のものが示されており、態度の育成も重視されている。様々な場でコミュニケーションを図ることは、どの学習においても基礎・基本となるものであるが、特に外国語活動や外国語の学習では、そのことを目標に挙げて取り組む必要がある。

以上のことから、外国語活動・英語部会では、小中学校が連携して「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を育てていきたいと考え、上記の「育てたい力」を設定した。

また、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を育てるために、小中学校5年間の指導内容系統一覧表を次の点を考慮して作成した。

- (1) 目標は、小学校では5・6年生2年間、中学校では1・2・3年生の3年間を通して設定した。学習内容は各学年に区切り、小学校は英語ノートの内容を参考とした。
- (2) 小学校では、音声面を重視し、「聞く」「話す」ことを中心にコミュニケーションをとるという経験を積み重ね、特に6年生から中学1年生にかけては、慣れ親しんだ経験が生かせるような言語活動の工夫を行うなどして、円滑な導入を図るようにする。
- (3) 中学校へ向けて英語の情報量を増やし、「聞く」「話す」から、「読む」「書く」という力につなげ、コミュニケーションを図るための技能面も系統表に取り入れた。

2 具体的な手だて（基礎・基本の充実に向けて）

小学校の外国語活動が中学校の英語へとスムーズに移行でき、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を育成するために、次のような共通の手だてで取り組むこととした。

- (1) 聞く・話す必然性のある場面を設定して、通じ合う喜びを体得させる
必然性をもたせ楽しんでコミュニケーションができるようにする。
- (2) 相手意識をもって積極的に外国語を聞いたり、話したりさせる
ペア、グループ、学級全体での発表など、相手を意識させコミュニケーションの大切さを感じさせる。
- (3) 授業の導入部分（あいさつ、日付、感情）を小中学校で同様にする
小中学校で共通のあいさつ英語などを使うことで、繰り返し使う機会が増え、児童や生徒が自信をもち、安心して英語の学習に取り組むことができるようにする。

検証授業Ⅰ

単元名「Lesson 6 外来語を知ろう」(小学校第5学年)

1 小中連携の視点

今年度から小学校に導入された外国語活動の目標は、特に音声面を中心として外国語を用いたコミュニケーション能力の素地を育成することである。

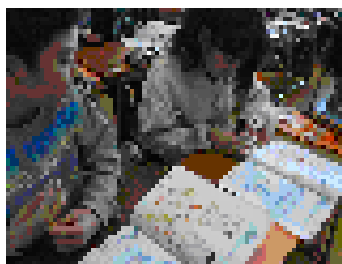
小学校では、中学校とのつながりを意識し、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を育成するために、実際にコミュニケーションを体験させることが大切である。

本時では、“What do you want?” “~, please.” “Here you are.” “Thank you.”の表現を用いて、ペアで欲しい果物を尋ねたり、要求したりして、友達のフルーツ・パフェを作ることを目標とする。

2 具体的な手だて・指導の工夫

(1) 聞く・話す必然性のある場面を設定して、通じ合う喜びを体得させる

〔Activity 2〕身近な外来語として果物を取り上げ、それらを実際に使ってみる場として好きな果物を注文して自分のフルーツ・パフェを作る場面を設定する。店員と客になり、“What do you want?” “~, please.”の表現に慣れ親しみ、コミュニケーションを図る楽しさを体験させる。



客になったり、店員になったりして、楽しくパフェが作れたよ！友達の好み分かって、よかった。

(2) 相手意識をもって積極的に外国語を聞いたり、話したりさせる

〔Activity 1〕英語ノートの巻末の果物絵カードを用いて自分のオリジナル・フルーツ・パフェを作って、相手に紹介させる。自分の好きな果物を相手に伝え、相手の好きな果物を聞く活動を通して、進んで話したり聞いたりさせる。

(3) 授業の導入部分(あいさつ、日付、感情)を小中学校で同様にする

導入で、ALTとあいさつし、気持ちや天気などを答えさせる。外国語を用いてコミュニケーションを図る体験を通してそれらの大切さに気付かせる。中学校の英語の授業の導入部分(あいさつ、日付、感情)と同様の流れで行い、中学校へのつながりをスムーズにする。

3 授業の考察

(1) 聞く・話す必然性のある場面を設定して相手に通じる喜びを体得させることについては、自分が要求した果物を相手がよく聞き、ペアの友達がパフェを作ったり、担任がTVモニターで大きく映し出したりしたので、自分の英語が相手に通じる喜びを感じられていた。

“What do you want?” “~, please.”のやり取りと果物の名前をチャンツでリズムよく言えるようになっていたので、スムーズに発話し、楽しくコミュニケーションすることができた。

(2) 相手意識をもって積極的に外国語を聞いたり、話したりさせることについての成果は、相手が好きな果物は何に興味をもってよく聞き、相手に自分の好きな果物が伝わるように話すことができた。ペアで伝え合った後、全体の前で発表を行ったため、自信をもってはっきり話すことができた。目と目を見て話すことができるようになることが課題である。

検証授業Ⅱ

単元名「Assistance Dogs」（中学校第1学年）

1 小中連携の視点

小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度などの一定の素地が育成されることを踏まえ、身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせる。その際、自分の気持ちや身の回りの出来事などの中から、簡単な表現を用いてコミュニケーションが図れるような話題を取り上げる。

本時では、小学校5年生で、“What do you want?”という、疑問詞と一般動詞を使った疑問文を使って、互いのことを聞き合うなどの活動を行い、その結果をグループ内で共有するとともに、3人称・単数・現在形の定着を図る。

2 具体的な手だて・指導の工夫

（1）聞く・話す必然性のある場面を設定して、相手に通じ合う喜びを体得させる

グループ内で、実際に言語を使用して互いのことや気持ちを聞き合う等の活動を行うとともに、3人称・単数・現在形という言語材料について理解したり練習したりする活動を行う。



互いに自己紹介し合うことで、友達のことが今までよりよく分かるようになった。

（2）相手意識をもって積極的に外国語を聞いたり、話したりさせる

小学校の果物やスポーツの絵カードを使って英単語を復習し、小学校で学んだ“What do you want?” “I want ~.”に関連した疑問文等を使って、お互いのことを聞き合う。

（3）授業の導入部分（あいさつ、日付、感情）を小学校と同様にする

小学校から親しんでいる英語の表現を用いてコミュニケーションをとることによって、あいさつ・日付等の言語を用いたコミュニケーションの定着を図る。

3 授業の考察

（1）聞く・話す必然性のある場面を設定して相手に通じる喜びを体験させることについては、グループ内で、分からない生徒に教え合ったり、生徒が聞く話す楽しさを感じたりするコミュニケーション能力が高まったと考えられる。その一方で、英語が不得意な生徒が集まるグループができた場合には、必要に応じて教師のサポートがあることが望ましいと考える。

（2）相手意識をもって積極的に外国語を聞いたり、話したりさせることについての成果は、小学校で学んだことを小学校で使用する絵カードを使用して復習したことで、生徒たちの中に笑顔があふれるコミュニケーション活動となった。課題としては、絵カードを黒板に掲示した方が、更に言語活動が充実したと考えられる。

その他の授業の実践 単元名「Lesson5 いろいろな衣装を知ろう」(小学校第5学年)

1 身近な場面での英会話に慣れ親しむ。

授業の開始にあいさつをしたり歌を歌ったりする。また、日時や日付を練習する。



What day is it today?

It's Tuesday.



Head, shoulders, knees and toes, knees and toes....

毎回絵カードを使い、慣れ親しんだあいさつの表現を覚えて答えている。また、歌を歌う時には、楽しく耳から入る英語を覚えて口に出している。

2 積極的に英語を使って会話し、進んでコミュニケーションする。



What's this?

It'sa pencil!

ブラックボックスの中に手を入れて、何が入っているかを答える活動を、二人組で行った。子供たちは楽しく「What's this?」のリズムに合わせて相手に問いかけ、答える方は「これ英語で何て言うの?」と言いながら「It's 物の名前。」を使ってコミュニケーションをすることができた。

成果と課題

成果

聞く・話す必然性のある場面を設定して、相手に通じ合う喜びを体得させる

それぞれのねらいにそった必然性のある場面を、発達段階に応じて設定したことで、児童・生徒からは、相手にもっと聞いてみたい、話してみたいという積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を見ることができた。

相手意識をもって積極的に外国語を聞いたり、話したりさせる

ペアやグループ活動を工夫したコミュニケーション活動を行うことにより、自分の思いや考えを、相手に分かりやすく伝えようとしていた。

授業の導入部分(あいさつ、日付、感情)を小学校と同様にする

小・中学校で共通の表現を継続して使用することで、小学校から中学校への英語教育の橋渡しがよりスムーズになった。共通の教材を使用することも、生徒が学習を思い出したり意欲を高めたりでき、学習活動の手助けとなった。

課題

この連携を通じて、それぞれの校種で外国語活動や英語の学習がどのように進められているのかをより具体的に知ることができた。今後はこれまで以上に連携を深め、今年度作成した系統表の活用場面を増やし、小中学校それぞれの授業改善の取り組みが継続して行われていくことが重要であり、課題でもある。